



fishive! < 羽毛田丈史音楽書庫 > since 2003.12.06



TOP

CDレポート

LIVEレポート

TV・ラジオ

雑誌・書籍

インタビュー

get you!

M.F.T.

BBS

NEWS

キャラクター

traces

サイトマップ

060203

葉加瀬太郎「VIOLIN SUMMIT 2006」

サントリーホール

たかぴーさんのレポート

チケットは葉加瀬さんファンクラブ枠で取得したにもかかわらず2階席の後ろから数えたほうが早いところで、人気のあるコンサートとなったことが容易に想像できます。前日にパンフレットは買ったのでこの日は何も買わずに2階席へ向かいました。舞台はサントリーホール。クラシックの聖地ということですが、果たしてそうなのだろうか。いまいちピンとこない。舞台の周りには360席2階席があり、かなり特殊なホールであることは伺えました。(3月にゴンチチも使うので、聖地には思えないんですよえ)。

■1部始まり

1. ヴァイオリン協奏曲集四季より「春」第1楽章

演奏者: 葉加瀬太郎/啼鵬(cembalo)/ストリングス

まずはストリングスが入場し、つぎにコンマスのNAOTOさんが入場してきました。音あわせの後、葉加瀬さんが入場、NAOTOさんと握手しました。曲まずは序章ということで有名な曲からということでしょうか。いたってシンプルでした。まだ羽毛田さんはいません。

■奥村愛さん

2. 愛のよろこび(奥村愛/葉加瀬太郎)

他の演奏者: 朝川朋之/ストリングス

3. 愛のあいさつ(奥村愛)

他の演奏者: 羽毛田丈史/朝川朋之/ストリングス

4. カヴァレリア・ルスティカーナより間奏曲(奥村愛)

他の演奏者: 朝川朋之/ストリングス

葉加瀬さんの紹介で真っ赤なドレス(前日はオレンジでした)を着た奥村愛さんが出てきました。

ラジオ番組で2、3年くらい前に初めて出会ったそうです。

「愛のよろこび」の後、葉加瀬さんは退場しました。

愛さん自身のMCではデビュー4、5年であることを言っていました。

そう言っている最中に黒っぽいスーツ姿の羽毛田さんが舞台左手から出てきました。とは言ってもとても静かに出てきました。ピアノも舞台の奥側にあるので、よく見ないと分かりません。完全に裏方となっています。

「愛のあいさつ」では奥村さんの伴奏をしていましたが、演奏が終わるとすぐにひっこんでしまいました。

「カヴァレリア・ルスティカーナより間奏曲」はimage d'amourに収録されている曲ですね。

■功刀丈弘さん

5. シェトランドエアー(功刀丈弘)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/ストリングス

6. イニシア〜パタフライ・セット(功刀丈弘/葉加瀬太郎/柏木広樹)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/越田太郎丸/啼鵬(bandoneon)

7. 4つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲より第1楽章(功刀丈弘/葉加瀬太郎/奥村愛/

高嶋ちさ子/柏木広樹)

他の演奏者: 啼鵬(cembalo)/ストリングス

奥村さんの演奏の後、またひっそりと羽毛田さんと真理恵さんが舞台左手から拍手も浴びずに出てきました。もう、ホントに裏方です。その後に功刀丈弘さんが登場してきました。相変わらずのボサボサの金髪の長髪姿で、帽子と赤のジャケットを着けていました。「シェトランドエアー」の後、「今日のラインアップの中で最も地味だ」と自分のことを評価していました。その後fiddleの紹介をしていました。普段は客も飲んでいるようなパブとかで演奏しているそうです。

次に普段「太郎ちゃん」と呼んでいる、葉加瀬さんと呼んで「イニシア」の演奏が始まりました。もちろん、出だ

しは羽毛田さんソロです。葉加瀬さんのソロツアーでも演奏した曲ですが、今回はとてもしっとりした雰囲気がありました。やはり、ピアノも演奏者によって雰囲気が違うものです。

続いて「バタフライ・セット」へと流れていきました。

その後のMCでバイオリンの音色の違いの話となり、愛さんのはおいしいお水、功刀さんのは枯れたウイスキーだそうです。「いい方にとらえていいんだよねえ？」と功刀さんが葉加瀬さんにツッコミを入れていました。そうしたMCを聴いているうちにまた羽毛田さんはいなくなっていました。今回はホントに静かです。最後に葉加瀬さんが「2人では華がない」と言って奥村愛さんと高嶋ちさ子さんを呼び、「4つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲より第1楽章」を演奏しました。

■高嶋ちさ子さん

8. バンジョーとフィドル(高嶋ちさ子)

他の演奏者: 啼鵬(clarinet)/ストリングス

9. タイスの瞑想曲(高嶋ちさ子)

他の演奏者: 朝川朋之/ストリングス

10. ナヴァーラ(高嶋ちさ子/葉加瀬太郎)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/啼鵬(clarinet)/ストリングス

前の曲でも同じ衣装でしたが、紫のドレスを着た高嶋ちさ子さんが出てきました。

「バンジョーとフィドル」「タイスの瞑想曲」と連続で演奏した後のMCで「初めて出会ったのが愛ちゃんはラジオ番組に呼んでいただいたのに対して、8チャンネルの物まね王座決定戦の審査員で隣り合わせになったのが初めて」というようなことを言っていました。

高嶋さんは葉加瀬さん同じくデビュー10周年だそうです、「葉加瀬さんのようにずっとスポットを浴び続けてきたわけではなく、6年間の潜伏期間があった」とか言っていました。

相変わらずその言葉の端々に何か毒を含んでいるようです。

最後の曲の前に葉加瀬さんを呼び、入ってきた葉加瀬さんが「ラジオ番組には来月呼ぼうと思っていた」と言った一言に対し、高嶋さんは「全然話来てない！」と返していました。ホントに面白い2人です。

「来年もやるんでまた来てください」と、来年もやることを言ってくれました。最後の曲「ナヴァーラ」だけ羽毛田さん登場。ピアノの演奏中に3~4回、こちらというか舞台中央の葉加瀬さん、高嶋さんのほうを向くシーンがありました。テンポをあわせるためでしょうけど。なんかしゃべって〜。羽毛田さんと高嶋さんはハーモニクス奏法が長く続き、すごかったです。

■20分間休憩

休憩時間に再びロビーに戻ってみました。

館内放送では流れていたのですが、高嶋さんのコンサートと「春のゴンチチ」と「live image」のチケット先行発売をしていました。早いですね。

「春のゴンチチ」のストリングスアレンジは羽毛田さんなのだろうかとちょっと考えましたが、チケットはすでに買ってあるので買わずに戻りました。

■2部始まり

11. アイネ・クライネ・ナハト・ムジークト長調より第1楽章

演奏者: 葉加瀬太郎/ストリングス

コンマス席にいたNAOTOさんとその向かいの席に座っていた柏木さんがいませんでした。葉加瀬さんが後から出てきました。いつもどおり中央で構えるのかと思いきや、空席のコンマス席へ座ると、会場がどよめきました。葉加瀬さんのコンマス席は珍しいですね。曲は2部の始まりということでシンプルでした。

■NAOTOさん

12. Sanctuary(NAOTO)

他の演奏者: 羽毛田丈史/越田太郎丸/ストリングス

13. SPAIN(NAOTO)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/越田太郎丸

葉加瀬さんがコンマス席に座ったまま、しばらくの静寂が続きました。どうも様子がおかしい。葉加瀬さんがコンマス席からしきりに舞台左手を振り返っています。会場も葉加瀬さんが振り返るたびにざわめいています。よく見ると次の「Sanctuary」でピアノ演奏するはずの羽毛田さんがいません。お〜い、羽毛田さん〜ん、そんな感じでしょうか。しばらくしてやっと羽毛田さんが出てきました。このときばかりは拍手を浴びていました。やっぱり疲れているのでしょうか。

ピアノに座ると羽毛田さんはすぐに「Sanctuary」の前奏を始めました。あ〜よかった。そして、前奏が流れる中、NAOTOさんが入ってきました。曲が始まっていますが、もう拍手拍手です。

「Sanctuary」の演奏が終わったところで葉加瀬さんは退場、NAOTOさんのMCは始まったのですが、なんかサントリーホールの雰囲気が合わない言っていました。ただ、「金髪でもバイオリンが弾けるんだぞというのを覚えて帰ってもらいたい」という力強い言葉がありました。

あともう一つ、普段ポップスを演奏しているというNAOTOさんは自分のことを愛ちゃんの「天然水」、功刀さんの「ウイスキー」に対し「コーラ」と例えていました。
最後の「SPAIN」は冒頭に「アランフェス協奏曲第2楽章」の出だしの部分が挿入されており、突然ジャズに変わる激しいアレンジでした。途中、羽毛田さんのピアノソロもありました。

■ 柏木広樹さん

14. Brisa (柏木広樹/NAOTO)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/越田太郎丸/西嶋徹

15. 航海記 (柏木広樹)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/越田太郎丸/啼鵬 (bandneon)/西嶋徹/ストリングス

台が舞台中央に設置され、柏木さんが出てきました。

まずはNAOTOさんと「Brisa」を演奏でした。途中、羽毛田さんのピアノソロが結構長く続きました。その間、NAOTOさんも羽毛田さんのほうを見ていました。

演奏が終わると、NAOTOさんの紹介に続いて、「はけたた〜けふみい〜」と柏木さんに紹介されていました。柏木さんの口調もなんか面白いです。その柏木さんが葉加瀬さんに近いところから入手した「かなり精度の高い情報」によると今回は気合を入れて練習しているという葉加瀬さんは最近寝ながら指が動いているそうです。あの年になってもまだ動くことに驚いていました。最後の「航海記」は真理恵さんのカッコいいパーカッションや越田さんのギターソロがありました。

■ 古澤巖さん

16. オレンジ・ブロッサム・スペシャル (古澤巖)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/越田太郎丸/啼鵬 (bandneon)/一本茂樹

17. As Time Goes By (古澤巖/葉加瀬太郎)

他の演奏者: 朝川朋之/越田太郎丸/一本茂樹

18. 2つのバイオリンのための協奏曲ニ短調より第1楽章 (古澤巖/葉加瀬太郎)

他の演奏者: 越田太郎丸/一本茂樹

ストリングスが全員退場して閑散とした中、「オレンジ・ブロッサム・スペシャル」の激しい伴奏とともに白のシルクハットをつけたウエスタンスタイルで古澤さんが入ってきました。

とてもハイテンポな曲でしたが、羽毛田さんはこの中でもきちんとピアノ伴奏をこなしていました。途中、だんだんテンポが速くなっていき羽毛田さんの手の動きも激しくなってきたところはすごかったです。真理恵さんももうすぐ体を動かしていました。羽毛田さん、大丈夫だろうかと少し心配になってしまいましたよ。葉加瀬さんが大学一年生のときに会って、その後バンドを組み葉加瀬さんにセカンドバイオリンをやってもらったという話をしていました。

そんなMCの後、このときを楽しみにしていたという葉加瀬さんとの共演を前に「葉加瀬くん〜」と呼んでいました。おお、さすが先輩だ。なお、古澤さんは変装については葉加瀬さんの言われたとおりにしているそうです。葉加瀬さんはそこまで言っていないらしいですけど。

残りの2曲は「As Time Goes By」はしっとりした曲で、葉加瀬さんはずっと弾いていたい気分と言っていました。「2つのバイオリンのための協奏曲」はジャズアレンジになっていました。演奏が終わると2人で抱き合っていました。

■ 葉加瀬太郎さん

19. ジェラシー (葉加瀬太郎/啼鵬 (bandneon))

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/越田太郎丸/ストリングス

20. ウィーンの森の物語 (葉加瀬太郎)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/啼鵬 (clarinet, horn)/ストリングス

21. ハンガリー狂詩曲 (葉加瀬太郎/功刀丈弘/古澤巖/NAOTO/柏木広樹)

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/越田太郎丸/啼鵬 (bandneon)/ストリングス

ストリングスが全員戻ってきました。まずは音合わせ。一緒に戻ってきた羽毛田さんがピアノで「ラ」の音を繰り返し出し、それにNAOTOさんが合わせ、さらに他のメンバーも合わせていました。

音合わせの後、いよいよ真打葉加瀬さんのワンマンショーかと思っていたら、葉加瀬さんと一緒に啼鵬さんがバンドネオンを持って入ってきました。葉加瀬さんのMCによると、チェンバロをやったりクラリネットをやったりしていたそうです。啼鵬さんは「ジェラシー」の演奏が終わると、とっとと後ろに引っ込みましたが、次のホルンを取り出していました。羽毛田さんは「ジェラシー」では鍵盤を下から上になでる(?)ときや、最後のところなどで結構目立っていました。

「ウィーンの森の物語」も確か羽毛田さんはいましたが、もう、よく覚えていません。この後、葉加瀬さんはいったん退場し、しばらくすると男性陣5人で出てきました。「ハンガリー狂詩曲」通常のクラシック曲と比べるとアレンジされていて短かったのですが、羽毛田さんはもちろんピアノ伴奏をやりました。途中、高音でのソロパートがあり、頑張っていました。そして、莫大な拍手の中、バイオリンの5人は一列で行進しながら退場していききました。拍手はその行進のテンポの手拍子に変わり、アンコールへと突入していききました。

■アンコール1

22.フィドル ファドル

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/越田太郎丸/啼鵬(clarinet)/ストリングス

23.情熱大陸

他の演奏者: 羽毛田丈史/大石真理恵/朝川朋之/越田太郎丸/啼鵬(clarinet)/ストリングス

7人全員が出てきました。並びはこんな感じです。

NAOTOさん 古澤さん 高嶋さん 葉加瀬さん 愛ちゃん 功刀さん 柏木さん

「フィドル ファドル」は明るい曲で、ホントの最後でもいいかなと思いました。

途中、葉加瀬さんたちが一斉に向きを変えながらの演奏は面白かったです。360度席があるホールでずっと背中しか見ていなかった人もいたので、その人たち向けだと思います(舞台奥から見ていた人は羽毛田さんを見つめていたことになりすね)。他の人がびよんと飛びはねながら90度ずつ方向を変えていくのに対し、愛ちゃんは飛ばずにだまって90度向きを変えていました。ドレスの丈が長いせいかもしれませんがそれが妙に可愛らしかったです。

曲の途中、コントラバスの2人がコントラバスを同時に1回転、どよめきが起きていました。あんな楽器をよく回せるなと思いました。バイオリンのNAOTOさんから功刀さんまで時間差で向きを変えるところがあり、功刀さんまで向きを変えると、柏木さんが360度その場でチェロを回しました。これにもどよめきが走っていました。この曲ではお決まりなのかもしれません。

「フィドル ファドル」の演奏終了後の拍手が鳴り止まぬまま、パーカッションがなり始め、羽毛田さんがあのフレーズを演奏してくれました。「情熱大陸」の前奏です。

みんなlive imageの感動を知っているせいか、会場はたちまち手拍子に包まれました。ただ、手拍子はすぐに鳴り止みました。よく見えなかったのですが、おそらく、前日と同じく葉加瀬さんが手拍子を止めさせたはずです。手拍子に合わないアレンジなのでしょう。確かに、静かな箇所がありました。しかし、最後の方になると、再び手拍子が鳴り始めて最高潮に。葉加瀬さんたちもバイオリンを左右に振りながらのlive imageを思わせる演奏を見せてくれました。「ブラボー」も飛んで最後は盛大な拍手となりました。

■アンコール2

24.ヴァイオリン協奏曲イ短調第1楽章

他の演奏者: 啼鵬(violin)/西嶋徹(violin)/ストリングス/スズキメソッドの子供たち(violin)

いったん退場していた7人全員が出てきました。最後は何だろうと思っていると、葉加瀬さんの紹介でスズキメソッドの子供たち多数(50人くらいかなあ、いや、もっといたな)出てきました。

みんなちっちゃいバイオリンを持っていて、もう会場は大騒ぎ。全員による演奏が始まりました。さすがに音がデカイデカイ。よく見ると、啼鵬さんや西嶋さんまでバイオリンで弾いていました。昔はみんなバイオリンやっていたんですね。このとき、チェンバロでだれか演奏していましたが、羽毛田さんでなかったようです。きっとスズキメソッドの教師の人でしょう。

演奏が終わると、盛大な拍手ともにスズキメソッドの子供たちが退場し、続いて葉加瀬さんたちが退場、拍手がなり止まずもう一度葉加瀬さんたちが登場、もう一度挨拶をして退場すると、ストリングスも退場し、コンサートが終わりました。

■■おわりに■■

live imageと比べるとクラシック曲が多く、まさにVIOLINの好きな人のためのコンサートと言う気がしました。そのせいか、羽毛田さんの声を聞くことは一度もなかったのですが、まあlive imageでたっぷり聞くことになるのでそれはいいか。

やはり羽毛田さんは日ごろ多忙なせいか、やると思われたチェンバロをすべて啼鵬さんに任せていたようです。このVIOLIN SUMMITでも音楽監督をやっていて最後に葉加瀬さんに紹介されていましたが、これが終わっても羽毛田さんはlive imageの音楽監督として、きっとlive imageに備えなければならないでしょうから、きっと切れ目はないと思います。うーん、くれぐれも体調には気を使って欲しいものです。羽毛田さんがくしゃみすると、全員くしゃみしそうなのがするのは私だけではないでしょう。くれぐれも無理しないで欲しいですね。

<出演>

葉加瀬太郎(violin)、奥村愛(violin)、功刀丈弘(fiddle)

高嶋ちさ子(violin)、NAOTO(violin)、柏木広樹(cello)

古澤巖(violin)

羽毛田丈史(piano)、大石真理恵(percussion)、越田太郎丸(guitar)

朝川朋之(harp)、啼鵬(bandoneon, clarinet, horn, cembalo)

西嶋徹(contrabass)、一本茂樹(contrabass)などなど 今年の

imageオーケストラの丸山さん以外のストリングス全員を含む21人の「NAOTOストリングス」